

しょうをつんでだいとなす

# 積小為大



豊川市立東部小学校  
校長室だより

令和2年7月号

## 梅雨・大雨・水害について（学校ホームページより）

学校ホームページの「校長室より」に雨天時の登下校や洪水、水害対応の記事をアップしています。内容が重複しますが、この校長室だよりにも、ホームページに掲載した内容をかいつまんで紹介いたします。

## 梅雨で雨が続きます。6月～10月は出水期です \*7/1UP

日本列島付近に梅雨前線が停滞し、雨模様の日が続きます。6月30日は愛知県東部や静岡県に集中して雨が降り、学校付近でもお昼前後に激しい降雨となりました。昼から下校前までに、校区の河川の様子や通学路の冠水の確認をしました。学校の北側の環状線の手前、古川を渡る地点は、大雨が降ると田の水が道路に溢れることがありますがこの日は大丈夫でした。通学路ではありませんし、児童は通らない場所ですが、土筒の少し堤防寄りの低くなった場所は、道路が完全に冠水して道と水路の境いが全く分からない大変危険な状態になっていました。道だと思って踏み込んだ



豪雨後の様子（土筒地区）



少し水が引いた様子



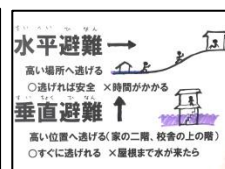
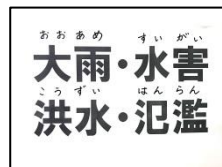
れないようにしましょう。

ら、溝や水路にはまってしまう可能性もあります。冠水した道路や水たまりには、足を踏み入

地方などで豪雨災害が起きているので「大雨と洪水（水害）」について話しました。初めに小さな笹飾りを手に童謡「たなばたさま」の冒頭のフレーズを歌い「今日は七夕なのに、あいにくの雨でおり姫とひこ星は出会えませんね」ということから、雨の話を始めました。防災への緊張感をもってもらうために、雨合羽に見守り隊の蛍光ベストとヘルメットという服装で臨みました。



初めに、洪水・氾濫などの水害の話をしてしました。次に、登下校の通学路で気をつけることについて話しました。それから、校区を流れる「豊川」について話しました。歴史的に洪水を繰り返してきたこと、堤防や放水路で治水ができていても、万一堤防が切れたら学校を含めた広い地域が水につかる可能性があることを伝えました。水平非難と垂直非難についても簡単にふれました。豊川洪水ハザードマップを参考にして、万一豊川が氾濫した時の対応について家族で話し合っておくことが大切だと伝えました。



## 7月7日の「にこにこ集会」\*7/7UP

「にこにこ集会」はTV放送で行っています。七夕の日の「校長先生のお話」は、梅雨で大雨が続き九州

## 梅雨の後半、雨が続きます\*7/9UP

集会の後も雨が続いています。木曜日は登校直前の時間帯に短時間で集中的な降雨がありました。学校北の環状線から折れて、古川を渡る地点の通学路は、これまでで一番の水深で冠水し、ガードレールがなければ古川の水面との境が分からない状態でした。冠水地点の入口と、西と東の信号交差点に職員が立って、歩いてくる子どもたちに迂回するように指示しました。

校区が広く、大雨の時は自動車で送り迎えをしてくださる保護者も多いのが本校です。学校周辺の送迎時の渋滞に関してお願いしたところ、通学児童の安全を気にかけて、近隣の住宅やハウス等への配慮をしてくださりありがとうございます。



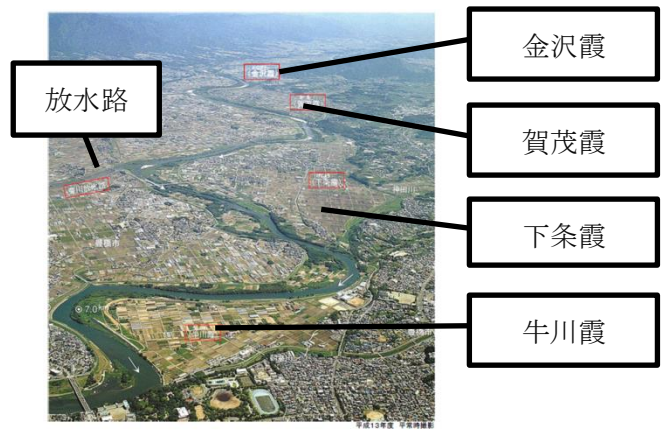
水没した通学路

田と道路と川の水面が同じ高さ

## 豊川の氾濫の歴史

昔の豊川は、西は現在飯田線の通る河岸段丘から東の山沿いまでの広い氾濫原を、蛇行して度々その流路を変えていました。現在の古川は、豊川の古い流路の跡です。牧野城のすぐ北を流れていました。豊川は流域が小さく、流路延長も短いため頻繁に洪水を繰り返してきました。(国土交通省資料、豊川史話、宝飯郡史より)

- 1497年(戦国時代) 川筋変わる
- 1622年(江戸時代) 井の島村神社流失
- 1666年 川筋変わる
- 1680年 麻生田村全戸移転希望するも豊河村が拒絶
- 1691年 橋尾 堰切れ 1715年も橋尾で決壊
- 1870年(明治3) 橋尾,院之子で決壊(以下同)
- 1889年(明治22) 橋尾,二葉,三上,大村,下地
- 1893年(明治26) 橋尾,賀茂,二葉,当古,大村,下地
- 1896年(明治29) 二葉,院之子
- 1898年(明治31) 豊津,三上,当古,院之子,大村,下地
- 1904年(明治37) 橋尾,賀茂,三上,当古,三ツ橋,院之子
- 1911年(明治44) 三ツ橋,院之子,柑子,行明,大村,下地
- 1959年(昭和34) 伊勢湾台風
- 1969年(昭和44) 台風7号 江島・金沢堤決壊

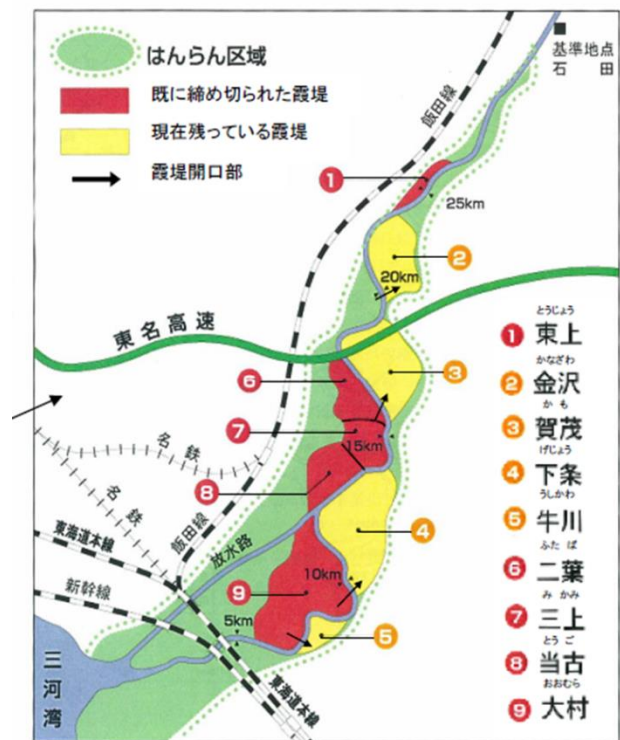


## 霞堤(鎧堤)と豊川の治水

豊川における治水事業は、江戸時代に吉田の城下町を洪水から守るため、中下流部に設けられた霞堤に始まるといわれています。霞堤は堤防が不連続であり、この不連続な箇所から一時的に洪水が溢れることで下流部の浸水被害を軽減してきました。これにより吉田の城下町は洪水から守られた反面、霞堤地区では洪水の度に浸水に悩まされ、その被害は甚大でした。

霞堤は昭和30年代には9箇所ありましたが、昭和40年に完成した豊川放水路により、沿川の洪水被害は格段に緩和されるようになりました。その後、豊川右岸側の5つの霞堤は、締め切られました。現在は、左岸側の牛川・下条・賀茂・金沢の4霞が残っています。

豊川の霞堤：国土交通省中部地方整備局豊橋河川事務所より



豪雨もコロナも早く過ぎ去って欲しいですね。

文責 (校長 金澤哲哉)